

薬物乱用の実際について

千葉ダルク 施設長 白川雄一郎 様

今回は、千葉ダルク施設長白川様から「薬物乱用の実際について」と「ダルクについて」のご講演と、2名の元薬物依存者の方から、体験談をお話いただきました。

ダルク (Drug Addiction Rehabilitation Center) とは、麻薬・向精神薬・睡眠薬・覚醒剤・シンナー・市販薬・アルコールなどの薬物に依存している人たちが、毎日行われる『グループ・セラピー』を通し、社会的にも回復したいと願う人たちの手助けをする“リハビリ施設”だそうです。★薬物依存者は、当たり前（起床・掃除・洗濯・就寝等）が、当たり前にならない病気でもあり、仲間との共同生活を通して、これらの習慣を取り戻す。★12ステッププログラムとミーティングを通して自己を見つめ直し、それを受け入れる新しい生き方を見つけ出す。★ダルクを退寮した後も『回復を続ける為（薬をやめ続ける為）』に各自助グループに通う習慣を身につける。★各学校や関連施設での講演、メッセージ生活を通して、薬物依存が『病気』であるという考え方を広く伝える。また、地域ボランティア活動に参加することで、長い間失っていたアイデンティティーや『自己の役割』（何か自分が役にたっているのだという思い）を取り戻す。以上のような活動をされているようです。

また、最近「ガスパン遊び」が再流行してい

るようだが、酸素の代わりにガスを吸入し、脳が酸欠になることを楽しんでいるだけなので、結果としては、脳細胞を破壊しているだけであり、思っている以上に危険だそうです。

体験談としては、20代前半からマリファナ・LSD・コカインを使用し出した29歳の男性（現在保護観察中）の話では、クラブ等で薬物が手に入りやすい環境を嘆いておりました。「普通に帰りたいたい」と考えダルクに入り1年以上離脱が出来ているそうです。また、20年間ブロン中毒に侵されていた40歳の男性の話では、18歳の時が入り口で、勉強についていけない時に、先輩から「寝ないで勉強すればどうにかなる」と勧められた『ブロン』にはまってしまったようでした。大学⇒商社⇒マスコミと、きちんとした定職に就くも、ノルマ達成のため朝早くから夜遅くまで働かなければならず、ブロンから離れられず、最終的には覚醒剤に手をだし、逮捕されたようです。我々が販売している、『ブロン』による中毒がここまで深刻なものなのか、考えさせられました。

千葉ダルクでは、更生の一つとして沖縄の「エイサー」を取り入れているようです。体を動かすことも、薬物からの離脱には効果があるようで、皆一生懸命取り組まれているようです。講演の最後に、ダルク職員及び入所者様の壮大な太鼓演奏と踊りを披露いただきました。